

授業実践の振り返り

補習授業校名：ミラノ・グローバル・ラーニング・アカデミー

指導者：曾我部実穂/機会理子

授業実施：2025年11月

学年・教科：小4・5 国語 単元名：未来につなぐ工芸品・工芸品のみりよくを伝えよう —イタリアの伝統工芸品 クレモナのバイオリンのみりよくを伝えよう—

時	活動	成果・子どもたちの様子	備考
1	<ul style="list-style-type: none"> ・イタリアにおける未来につなぐ工芸品—クレモナのバイオリンについて知る。 ・教師が作成したバイオリンについてのスライドをモニター画面で見ながら学習する。 	モニターでスライド写真や地図や博物館の紹介ビデオを見ながら説明を聞くことで、児童は、画像からも具体的な情報が得られ理解を深めることができていた。児童からは多くの質問なども出て、意欲的に授業に取り組んでいる様子が窺えた。画面を見ながら教師の説明を聞き、メモもしっかり取っていたのは、以前の「メモをとる時」の学習が活かされていたからだろう。バイオリン制作者でもある小4担任作製のバイオリンに触れる機会をもったが、初めてバイオリンに触れたり弾いたりした児童がほとんどだったので、この体験により、子供たちはさらにバイオリンについて興味を持ったようだ。	<ul style="list-style-type: none"> ・モニター、スライド、ビデオ使用 ・ワークシート
2	<ul style="list-style-type: none"> ・クレモナへの社会見学の準備 「社会見学で、バイオリンについて知りたいことや質問したいこと」を発表した後、グループごとに担当する質問を分ける。 グループ内では、誰がどの質問をするか等の役割を決めて、質問やインタビューの仕方を練習する。 	MIGLA で企画した初めての社会見学なので、クレモナに社会見学に行くと聞いただけで、準備段階から力が入って様々な質問のアイデアが出ていた。博物館や工房見学での質問やインタビューは、正しい日本語を使い、適切で丁寧な言葉遣いで行うことを目標にした。本校では、学校生活や授業でも丁寧語を使って話すことを基本としているため、子供たちは質問作りや練習に抵抗なく取り組めていたようだ。4・5年生は、茶道体験などを一緒にしたり、休み時間に一緒に遊んだりなどの交流はあるが、合同での教科授業や混合でグループを組んでの学習活動は初めてだった。しかし、お互いに積極的に意見を出し合い、また、わからぬい言葉があると教え合うなどして、グループ内で協力し合って学習を進めることができていた。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・グループワーク
3	・クレモナ社会見学（バイオリン博物館見学、展示してある有名バイオリンを使ったミニコンサートを鑑賞、バイオリン工房で話を聞く）	クレモナの往復は、保護者の協力により、現地集合現地解散というかたちでおこなった。日本人ガイドさんに案内をお願いし、日本語で説明を聞きメモをとりながらバイオリン博物館を見学したが、ガイドさんの説明が、児童が理解を深めるよい助けとなっていた。普通では中々聴けない500年よりも前の歴史的なバイオリンを使ったミニコンサートの鑑賞では、実際に未来に繋がっている伝統工芸楽器の音を聴く貴重な機会となった。また、日本人のバイオリン職人さんの工房では、現職の職人さんからしか聞けないお話がたくさん聞け、自分のグループで考えてきたインタビューだけでなく、お話の内容に関する質問も積極的にしていった。また、思いもかけず、実際にバイオリンの裏板を削らせてもらうという体験をしたが、これは、子供たちの記憶に残ることだろう。現地に行ったからこそこのような五感を使った体験が色々でき、子供たちにとっては実りの多い、今後の学習に大いに活かせる社会見学になったと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者参加 （工房見学は児童と教師のみ） ・博物館内では写真撮影 ・工房ではビデオ撮影 ・ワークシート
4	・社会見学で得た情報の共有と、自分たちが	社会見学後の家庭学習では、それぞれが、社会見学で見たこと、聞いたことをまとめてくることを宿題にし	・ワークシート

	伝えたいバイオリンの魅力について考える	た。保護者も社会見学に参加したことで、家庭学習において保護者のサポートも得られ、その協力の成果が子供たちの文章にも表れていた。日本人ガイドさんや職人さんから聞いたことが、まとめの中にしっかり取り入れられており、児童たちが説明をよく聞いていたことが伝わってきた。各自がまず発表し、その後、皆で共有した情報を整理しながら、各グループでどんな魅力を伝えたいかをまとめるグループワークも、それぞれ助け合って行え、読むのが苦手な児童を得意な児童がフォローする等の場面もみられた。	・グループワーク
5	・参観日でバイオリンの魅力を伝えるプレゼンテーションをすることを知り、発表するための文章作りやプレゼンテーションのための準備をする	毎回の授業で、前に出てまとめてきたことを発表する時間を設けているので、皆の発表もだいぶ上手になってきた。先週の宿題でまとめてきた文章に、伝えたい魅力についての情報をもう少しつけ足すために、工房見学のときに撮ったビデオを皆で見直した。見学の様子をビデオに撮っていたことで、見直しながら情報をつけ足せるというのも、一つのICTの活用方法だ。それもただの説明ビデオを見るのとは違い、児童自身が発言や活動しているビデオなので、社会見学の時のことを思い出しながら情報の見直しができたと思う。今は、実際にその場所に行かずともインターネット等で簡単に調べられる時代になっているが、同じICTの利用でも、やはり、実際に社会見学に行き、児童自身が実体験したことをビデオ撮影し、それを教材に使うことは、子供たちが意欲的に学習する一つの効果的な方法なのではないかと思った。教科書にあるリーフレット作りのように、「初め」「中」「終わり」の書き方でプレゼンの文章を書いてくることを説明したが、小2から今まで繰り返し学習している文章構成なので、家庭学習のやり方も抵抗なく理解できたようだ。	・社会見学で撮影したビデオを使用 ・ワークシート
6	・バイオリンの魅力を伝えるプレゼンテーションの文章や保護者に出すクイズの準備後、モニター画面の画像と合わせながら発表の練習をする。	「初め」「中」「終わり」の文章の書き方をよく理解し、魅力を伝えるためのプレゼンの文章の下書きがよく書けていた。保護者に出すクイズは「こんなクイズは、どうかな？」など案を出し、自分達が学んだことを活かしつつ、楽しみながら作業を進めている様子が窺えた。プレゼンの文章に合うモニター画面で映す写真選びや画像合わせをしでは、児童から積極的に「こんな写真が欲しい。」「こんな図があったら、わかりやすい。」などの意見が出ていた。初回の授業で、教師がスライドを使用した授業をしたことで、自分達の発表のイメージもつかめていたように思う。子どもたちの意見を取り入れつつ、発表用のスライドと一緒に作成していくた。発表が、まだスムーズにできない子もいたが、家庭で何度も練習してくるよう促した。	・モニター・写真・スライド使用
7	・伝統工芸品クレモナのバイオリンについて魅力を伝えるプレゼンテーション	発表当日の授業参観は、児童の中から司会を選び、子どもたちで進行するかたちをとった。保護者の前で、少々緊張気味だったが、何度かのリハーサルや今までの授業で毎回前に出て発表する時間を持っていたことが功を奏した。グループ内で、説明する係と説明に合わせて画面をさす係の息も合い、モニター画面で映し出される画像をうまく活用しながら、各グループがそれぞれの視点で上手にバイオリンの魅力を伝えられていた。評価表を用い、項目別に他のグループの評価をつけることで、自分たちが発表するというだけでなく、しっかり相手の発表も聞けていたようだ。社会見学時から協力してもらった保護者には、子供たちの発表を	・保護者参加型授業 ・モニター・スライド使用 ・評価表

		聞くだけでなく、社会見学で学習したことについてのクイズに答えてもらったり、子供たちのプレゼンについて感想を話してもらったりする活動も取り入れたことで、親子で一緒に楽しめる授業となった。	
8	・今までの学習を振り返る ・学習のまとめ	バイオリンの魅力を伝えるプレゼンの文章を仕上げるまでに、人にどのようにしたらうまく伝わるかを考えながら工夫して文章を書き直す作業を重ねたことで、振り返りの文章の中でも、文章表現や構成などについて、以前より成長がみられていた。また、つけた評価（良かった点や改善点）をお互いに伝え合うなどし、振り返りの時間を持ったことで、子ども達が自分の学習も客観的に見つめる機会が持て、次の学びへつなげることができた。さらに、ほかの伝統工芸品についての調べ学習への興味がわいている児童もいた。	・振り返りの作文 ・評価表

伸ばせた力、子どもの変化、保護者の反応など

日本語で聞いた説明のメモを取り、それをもとに、自分の文章にまとめて発表するという作業を繰り返したが、みんな粘り強く頑張ってよく取り組んだ、そこにICTも活用したので、理解がさらに深まり、文章をまとめる力や発表する力が以前より伸びたと思う。4・5年生とも少人数のクラスで仲は良かったが、合同でグループワークをしたことで、学年を超えてお互いに助け合ったり、人の意見をしっかり聞いたりする力がついた。ICT機材が整っていないことで、今まで、ほとんどICTを用いた授業はしてこなかったが、写真やビデオやモニターを用いた授業に意欲的に取り組めた。社会見学実施日には、保護者の協力が得られ、一緒に見学し親子で学んだことで、保護者もこの授業への関心が高かったように感じる。家庭学習でのサポートも積極的してくれている様子が窺えた。授業参観では、子供たちの発表から、この学習の成果や子供たちの成長を感じてもらえたのではないだろうか。

所感

社会見学を組み込むなど大変盛沢山の活動となつたが、子供たちは、今まであまり知らなかつたバイオリンのことやクレモナの町のことを授業や社会見学を通して学び、様々な新しい発見をしたと思う。準備から、社会見学、グループで協力し発表の準備、初めてのモニターや画像を使っての学習や発表という手順での作業には、皆が主体的に意欲的に、また、楽しく取り組めていたので、いろいろな面で子どもたちの学習力がついた学習活動だったと思う。社会見学で撮った写真やビデオを活用したことも、子供たちの学習への意欲を高めるのに役立つた。ICTを使った授業の第一歩として今回の授業に取り組んだ。ICTを利用した授業についてはあまり経験のなかつた授業者であるが、試行錯誤しながらの授業は大変良い経験になった。